

大手企業の合理化設備計画と外注取引先の死活問題

R.F.C

リスク・カウンセラー & ファイナンシャル・カウンセラー

Information & Report

2007.02.27 Vol.2007-02

●大企業が生き残る為の合理化指

●大企業が生き残る為の合理化指
昨年年度の一都三県の設備投資に対する計画は、二年連続して製造、非製造業とも、前年度並みの前年度比

●大企業が生き残る為の合理化指
その陰では、困惑する中小企業があることを忘れてはならない。特に印刷・出版業界に開く中小零細企業のとまどいは大きなものがあるといわれている。古くから3K(きつい・汚い・危険)の最たる職種といわれ続けているに人手不足が恒常化し深刻な問題として取り上げられていた。特に、文字組版の作業では、活字を取り扱う過程である文選、植字、版で「鉛中毒」が大きな問題となり、その後、電算写植機が開発された。そして業界では、凸版印刷からオフセット印刷が主流になり、併せてマシントップシユの出現により製版過程がデジタル化され、一方、OA機器の普及により、ワープロ、プリンター、スキヤナー等を企業が積極的にオフィスに導入したことにより、中小零細の印刷関連業者は新たな業態の転換を迫られ追従できない業者は淘汰されてきた。

【ちよつと露時記】
春は名のみの風の寒さやう。太陽の温もりを受けた大地がゆるやかに春のはじめ、真冬の力チ力チの大気とは違って変わって：晴れた日に遠くに見える冠雪した富士山が春霞の向こうに揺れて見えるようになりました。愛犬との夜の散歩で観る星座の景色もいつの間にか春景色。吸い込める息が鼻にツンときた頃のは南の方角にあったオリオン座の輝きが、ズンズンと西の方角に移っているのははつきりと分かるようになりました。夜空の三日月には霞がかかっている見える日が多いのも：遠い山を越えながらやってくる春の兆しということなのでしょう。引き綱を持つ手に手袋が必要なくなってきました。(細野)



●中小企業は労働集約型が魅力
膨大な設備投資を行って、品質管理の一元化など大きな期待を寄せている。これらの業界に携わってきた個人、DTP業者等の中では、もはや、人手不足から人余り現象さえ起きており、単価競争に追従できず廃業しなければならぬ事態さえも予測されている。

●窮鳥懐に入れば獵師も殺さず
大企業の企業が生き残るためには、ダイナミックに変革することを求められていきます。新たな設備の導入と共に取引先との形態も大きく変わってくる場合もあります。今まで発注されていた仕事がなくな

膨大な設備投資を行って、品質管理の一元化など大きな期待を寄せている。これらの業界に携わってきた個人、DTP業者等の中では、もはや、人手不足から人余り現象さえ起きており、単価競争に追従できず廃業しなければならぬ事態さえも予測されている。

膨大な設備投資を行って、品質管理の一元化など大きな期待を寄せている。これらの業界に携わってきた個人、DTP業者等の中では、もはや、人手不足から人余り現象さえ起きており、単価競争に追従できず廃業しなければならぬ事態さえも予測されている。

●窮鳥懐に入れば獵師も殺さず
決して見栄を張らないで。この時、見栄を張った会社は、その時を境にして倒産への道を歩く結果となってしまうのです。大企業にできない中小企業ならではの得手の部分前面に押し出すことによって、大手の取引先との新たな取引関係が生まれてくることは間違いありません。「窮鳥懐に入れば獵師も殺さず」ということわざの通り、自ら誠意をもって相手に本音を接することで、窮地を脱することができるよう。

膨大な設備投資を行って、品質管理の一元化など大きな期待を寄せている。これらの業界に携わってきた個人、DTP業者等の中では、もはや、人手不足から人余り現象さえ起きており、単価競争に追従できず廃業しなければならぬ事態さえも予測されている。

膨大な設備投資を行って、品質管理の一元化など大きな期待を寄せている。これらの業界に携わってきた個人、DTP業者等の中では、もはや、人手不足から人余り現象さえ起きており、単価競争に追従できず廃業しなければならぬ事態さえも予測されている。

業界にあっても共通していると云えます。つまり、社会から必要とされているかどうかです。自分が、会社、今までは何であつたかかというものです。今までは必要とされてきたものが、これからは必要とされるかどうかが大切です。その見極めが先見性というものになるわけです。



温かくなってきました。銀座通りの…風に流れて揺れる柳の枝に、黄色い芽がプチプチと膨らんできました。足下の花壇には土からヒュンと立つ茎の周りにピンク系の色とりどりの花卉が開き…街並を明るくしていました。

●禍福は門なし。唯だ人の召く所なり。

私はなんと不幸な運命…不幸な人生…なのだろうか。あのとき…あのひととさえ会わなければ…。あの人の口車にさえ乗っていなければ…。何故…あんな選択をしてしまったのだろうか…。あの取引先が倒産さえしなかったらこんな酷い目に遭わないで済んだのに…。

トラブルの相談があるたびに…そんな言葉を耳にすることが多いような気がする。

経営者の場合では、社員の欠点を指摘して、「彼は自分に対して故意にそうしている…」とその社員の態度を赤裸々に非難したりする。一挙手一投足が気になって仕方がないようだ。金融機関に申し込んでいた融資がダメになつたりすると取引銀行の担当者を非難していたりする。

そんな会社の社員とはいえば…取引先の担当者をこき下ろしたり…面と向かって説教まがいの口調で話してみたり、自分と取引先担当者との意見に食い違いがあったりすると自分には非がないことを滔々と弁じ立てていたりする。

この社長にして、この社員あり…という光景だ。活き活きしている会社に訪問したときは、打ち合わせが終わってその会社を出た後でも、背中のあたりがほのぼのと暖かい感じが残っているような後味の良さを感じる。銀行の担当者との融資折衝の様子を見ても、銀行が必要とする資料を分かりやすく整理し、担当者が融資の申し込み資料を作成するに十分な説明をしている。

打ち合わせしている席の近くを通る社員もきちんと会釈して挨拶するし、通り過ぎた社員の後ろ姿を目で追いながら…私にその社員のことを褒めて自慢している。そのように社員を自慢する社長は輝いて見えました。

何かにつけ、自分の周囲の人を批判の目で見て…批判の言葉でその人のことを表現する人には…何故か自分が不幸だと思っている人が多いような気がする。

また、自分の周囲の人を…「あの人は素晴らしい人だ…」と賞賛の眼で見て…その人の素晴らしさを素直に認めているような人は…いつも温かな空気がその人の周りを覆い…沢山の人が集まってきているような気がしてならない。

●心の穴は「天国言葉」で埋め尽くす…

先日のことです。ずいぶん前に購入しておいた齊藤一人さんの著書「地球が天国になる話」の本を何気なく開いてみました。沢山の心に響くことが書いてありましたが気になっていた78ページを真っ先に開いてみました。

◆=◆=リスクカウンセラー・四方八方巷談=◆=◆
 googleで"リスクカウンセラー"と検索してください。
<http://risk-counselor.seesaa.net/>

リスク・カウンセラー奮闘記・33



カマキリの卵を見つけました。恐らく100匹以上の子供が誕生することでしょう。

そこに「心の穴は「天国言葉」で埋めてください」と書いてありました。「ついでる。うれしい。楽しい。感謝しています。幸せ。ありがとう。許します。」の7つの言葉を何度も呪文のように繰り返して唱えるのだそうです。

一つ一つの言葉を声に出して言ってみると何となく心が軽くなり、気持ちが楽になってきます。全ての言葉が、素直な心の喜びを感じる言葉であることに気がつきます。

ずいぶん前のことですが、コップの中の水に向かって優しい良い言葉を聞かせたり、美しい音楽を聴かせたりして、その水に花を生けるとその花は長持ちし、逆に…悪い汚い言葉を聞かせたり他人の悪口を言うて聞かせた水に花を生けると直ぐに枯れてしまうという実験に立ち会ったことがありました。

齊藤一人さんの言葉に…
 「神様は、だれにでも同じように素晴らしい能力を与えてくださっています」
 「その素晴らしい能力とは、人を褒めるという能力です。」
 「素晴らしい能力を持った人に近づこうとすることは無駄な努力」
 「自分にないものを欲しがることよりも自分に備わった能力を最大限に生かしなさい」
 「人を褒めることが出来るようになれば自然に人が集まってくる」
 同感です。

人を褒めることができず、能力のある人を羨んでいたり、妬んでいるということは、自分にコンプレックスがあることを隠そうとすることであって、魅力がある人として周囲の人は慕って来てはくれません。

失敗はだれにもあることです。失敗から立ち直るためにも、周囲の素晴らしい人を見つけ、その素晴らしい部分を褒めてみてください。その人達が…みんな貴方の味方になってくれたらどんなにか心強いことになるでしょうか。

携帯電話から「ブログ」を読めるようにいたしました。どうぞご覧下さい。



街を歩くと店先のショーウィンドウに雛人形が並べられています。深夜、久しぶりに近くのスーパーに行ってみたら、「雛あられ」は…すでに店の片隅に追いやられていました。

【ホロニクス】(英: Holonic) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。すなわち組織と個人が有機的に結びつき全体も個人も生かすような形態を言う。生物は個々の組織が自主的に活動すると同時に独自の機能を発揮する一方でそうした個が調和して全体を構成する(小学館「カタカナ語の事典」より)